

第138回気象記念日について
－「気象業務はいま 2013」を刊行します－

平成25年6月1日（土）は、第138回気象記念日です。気象庁では次の記念行事等を行います。

- 1 第138回気象記念日式典を行います。式典の概要は別紙1－1、気象庁業績表彰受賞者は別紙1－2のとおりです。式典は報道機関に公開します（会場内での撮影が可能です）。
- 2 「気象業務はいま 2013」を刊行します。概要は別紙2－1のとおりです。

※ 気象記念日は、気象庁の前身である東京気象台が明治8(1875)年6月1日に設立されたことを記念し、昭和17(1942)年に制定されました。

本件問い合わせ先：気象庁総務部総務課広報室
電話 03-3212-8341 内線(2117)

第 138 回気象記念日式典（概要）

1 日 時 平成 25 年 6 月 3 日（月） 11 時 00 分～11 時 40 分

2 場 所 気象庁講堂

3 式典次第

開式の辞

国歌斉唱

気象庁長官式辞

国土交通大臣あいさつ

国土交通大臣表彰

気象庁長官表彰

被表彰職員総代答辞

閉式の辞

平成 25 年 6 月 1 日付

第 138 回「気象記念日」 気象庁業績表彰受賞者名簿

【国土交通大臣表彰】

1. 船舶（気象通報） 1 隻

気象業務に対する深い理解のもとに多年にわたり海上気象の観測通報を確実に励行し
気象業務の発展に寄与した功績

番号	被 表 彰 者		
	所 属	船 名	備 考
1	神奈川県立海洋科学高等学校	湘南丸 殿	平成 17 年長官表彰

【気象庁長官表彰】

1. 気象行政の推進に寄与した功績 2 団体

番号	被 表 彰 者	功 績 事 項
1	牧志 泰三 殿	沖縄気象災害防止協議会長として長年気象業務に協力し沖縄県における気象災害防止の啓発に尽力した功績
2	一般社団法人 日本気象予報士会 殿	気象庁の業務や防災知識の普及啓発に積極的に取り組み気象業務の健全な発展に寄与した功績

2. 委託観測所（個人） 2 名

多年にわたり地域気象観測所の委託観測業務に献身的に協力し気象業務に寄与した功績

番号	観測所名	被 表 彰 者
1	つべつ 津別	廣岡 寿幸 殿
2	りゅうじん 龍神	有本 恒祐 殿

3. 委託観測所（団体） 3 4 団体

多年にわたり地域気象観測所の委託観測業務に献身的に協力し気象業務に寄与した功績

番号	観測所名	被 表 彰 者
1	けせんぬま 気仙沼	気仙沼市役所 殿
2	のしろ 能代	能代山本広域市町村圏組合消防本部 殿
3	かわうち 川内	川内村長 殿
4	とおの 遠野	遠野市消防本部 殿

番号	観測所名	被表彰者
5	くじ 久慈	久慈市役所 殿
6	のう 能生	糸魚川市立中能生小学校 殿
7	とちお 栃尾	長岡市栃尾消防署 殿
8	かやの 栢野	加賀市長 殿
9	たてしな 立科	立科町役場 殿
10	さく 佐久	佐久広域連合消防本部佐久消防署 殿
11	ぼんどう 坂東	茨城西南地方広域市町村圏事務組合消防本部 殿
12	おおつき 大月	大月市消防署 殿
13	かつぬま 勝沼	甲州市役所 殿
14	みやがわ 宮川	大台警察署 殿
15	はんのう 飯能	飯能市浄化センター 殿
16	たじみ 多治見	多治見北消防署 殿
17	きくがわまきのほら 菊川牧之原	静岡県農林技術研究所茶業研究センター 殿
18	うめがしま 梅ヶ島	静岡中央警察署梅ヶ島警察官駐在所 殿
19	とうのしょう 東庄	東庄町役場 殿
20	みのり 美野里	小美玉市立美野里中学校 殿
21	かいばら 柏原	丹波市消防本部 殿
22	いくの 生野	朝来市役所 殿
23	いえしま 家島	姫路市 殿
24	おおみしま 大三島	今治市役所大三島支所 殿
25	たまがわ 玉川	今治市役所玉川支所 殿
26	あきよしだい 秋吉台	美祢市立秋吉台科学博物館 殿
27	くだまつ 下松	下松市水道局御屋敷山浄水場 殿
28	たいめい 岱明	玉名市岱明町公民館 殿

番号	観測所名	被表彰者
29	ほんど 本渡	熊本県農業研究センター天草農業研究所 殿
30	うえ 上	熊本県農業研究センター球磨農業研究所 殿
31	しいば 椎葉	椎葉村役場 殿
32	なかこしき 中甕	薩摩川内市役所上甕支所 殿
33	いぶすき 指宿	鹿児島大学農学部附属指宿植物試験場 殿
34	いせん 伊仙	鹿児島県農業開発総合センター徳之島支場 殿

4. 委託観測所（航空） 1名

多年にわたり航空気象観測業務を遂行し航空機の安全運航に寄与した功績

番号	観測所名	被表彰者
1	こうづしま 神津島航空気象観測所	神津島港湾空港管理事務所 殿

5. 船舶（気象通報） 5隻

多年にわたり海上気象の観測通報を確実に励行し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者	
	所 属	船 名
1	宮城県教育庁	宮城丸 殿
2	太洋日本汽船株式会社	いんでいあな はいうえい 殿
3	エム・オー・エル・シップマネージメント 株式会社	黒滝山丸 殿
4	独立行政法人航海訓練所	海王丸 殿
5	株式会社ユニバーサルマリン	ぷろ ぐれーす 殿

6. 船舶（表層水温・海流通報） 2隻

多年にわたり海洋の表層水温の観測通報に積極的に協力し気象業務に寄与した功績

番号	被表彰者	
	所 属	船 名
1	国際航業株式会社	第三南海丸 殿
2	和歌山県水産試験場	きのくに 殿

7. 漁船 5隻

海上気象の観測通報に積極的に協力し気象業務に寄与した功績

番号	被表彰者	
	所属	漁船名
1	前潟水産有限公司	第八福栄丸 殿
2	まるの漁業株式会社	第二十八野村丸 殿
3	株式会社カネシメイチ	第十八亀洋丸 殿
4	共栄水産有限公司	第八三栄丸 殿
5	武村 仙博 殿所有	第一仙昌丸 殿

「気象業務はいま 2013」の刊行について

「気象業務はいま」は、広く国民の皆様にも、気象庁の業務の全体像をご理解いただくことを目的として気象記念日（6月1日）に合わせて毎年刊行しています。

今年の「気象業務はいま 2013」の主な内容は、次の通りとなっております。構成については、別紙 2 - 2 をご覧下さい。

- ・ 特集「社会に生きる気象情報」では、ICT（情報通信技術：Information and Communication Technology）の発展とともに歩んできた気象庁の業務、そして、ICT を活用した新たな気象サービスについて取り上げております。それに加え、再生可能エネルギーによる発電など、新たに気象情報の利活用が期待される分野も取り上げ、関係者からのご意見も盛り込みながら、科学技術・社会経済の発展と今後の気象情報の可能性について記述しています。
- ・ トピックスでは、この1年の主な自然災害の状況や気象庁における新たな取り組みを記述しました。特に東日本大震災や平成 23 年台風第 12 号による大雨災害において、気象庁が発表した警報をはじめとする防災情報が、迅速な避難行動に結びつかない例があった事実を重く受け止め、新たに創設することにした「特別警報」を取り上げております。また、本年 3 月 7 日から運用を開始した新しい津波警報についても解説しております。
- ・ 第 1 部「気象業務の現状と今後」では、防災情報をはじめとする各種情報について解説するとともに、気象・海洋や地震・火山などの監視・予測、技術開発といった取り組みを紹介しています。
- ・ 第 2 部「最近の気象・地震・火山・地球環境の状況」では、昨年の気象災害や地震、火山活動、異常気象などを紹介しています。

「気象業務はいま 2013」は、6 月 3 日以降、全国の書店及び政府刊行物センターから注文販売で取り扱います。また、気象庁ホームページの「気象庁関連の刊行物・レポート」ページにも掲載します。

(<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html>)

「気象業務はいま 2013」の構成

○特集 社会に生きる気象情報

第1節 ICTが導く気象情報のさらなる活用

- (1) ICTの進展と気象情報
- (2) ICTが切り拓く新たな防災気象情報
- (3) 新たな気象サービスの創造に向けて

第2節 暮らしや産業に役立つ気象情報

- (1) 再生可能エネルギーと気象情報
- (2) 電力需要予測や熱中症対策と気象情報
- (3) 産業と気象情報
- (4) 利用者との対話の促進

○トピックス

第1節 「特別警報」の創設

第2節 平成24年の主な風水害

第3節 平成24年12月7日の三陸沖の地震～約1年8か月ぶりに津波警報を発表

第4節 防災気象情報の強化

第5節 アジア域の観測測器の校正及び保守管理の充実に向けて
～国際ワークショップを開催～

第6節 地震・津波情報の高度化に向けた動き

第7節 火山に関する情報の高度化と防災対応

第8節 異常気象・地球温暖化と気象庁の対応

第9節 地磁気観測所100周年

○第1部 気象業務の現状と今後

第1章 国民の安全・安心を支える気象情報

第1節 気象の監視・予測

第2節 地震・津波と火山に関する情報

第3節 地球環境に関する情報

第4節 航空の安全などのための情報

第5節 民間の気象事業

第6節 地域の防災力向上への取組み

第2章 気象業務を高度化するための研究・技術開発

第3章 気象業務の国際協力と世界への貢献

○第2部 最近の気象・地震・火山・地球環境の状況○参考資料 全国気象官署等一覧、用語集、索引